

病名：脊柱側弯症

治療計画：

脊柱側弯症は背骨が曲がる病気で、その多くは特発性側弯症で、思春期に発症します。許容範囲内の曲がり（コブ角で30度以下）で骨成熟を迎えると、それ以降は進行しません。そのため、許容範囲での曲がり角度で骨成熟を迎えることが側弯症治療の目標となります。

側弯症の曲がりの増強は骨成熟時期に生じるため、この時期を注意深く観察する必要があります。骨成熟時期は女性の場合初潮から約3年間、また成長カーブでも骨成熟程度が推定されます。そのため、初潮の時期をお聞きし、診察毎に身長・体重の測定をさせていただきます。

現在のところ側弯症が進行するかどうかを予測することはできないため、定期的なレントゲン撮影が必要になります。撮影頻度は年に2~3回程度です。

側弯症について概説した、「知っておきたい脊柱側弯症」という冊子（コピー）をお渡しします。

側弯症に関してかなり詳しく説明されていますが、ご不明のことやご質問等ありましたら遠慮なくお声がけください。

川谷整形外科 理事長 川谷義行